

健康・スポーツ科学科のキャンプ実習から得られる実行力と指導力

中 村 哲 士, 保 井 俊 英
(武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科)

Performance Capability and Leadership Acquired from Camp Practice of Department of Health and Sports
Tetsushi Nakamura, Toshihide Yasui

*Department of, Health and Sports, School of Letters
Mukogawa Women's University, Nishinomiya 663-8558, Japan*

Abstract

The purpose of the research is evaluation of the performance capability and leadership in the camp practice. This time, the comparison of study results of four years was valued.

The results were summarized as follows:

1. The reason for participation is "Participation charge" and "Credit earning". The participation student has consideration that it wants to share the enjoyment with the friend.
2. Students intend "Basis", "Safety", and "Peace" for the practice period.
3. The students' camp experiences are about 2~3 times of one person.
4. Students have an almost similar camp technology.
5. The cooking technology is experience shortage in life.
6. A prior education increases group member's communications.
7. Because "Fire causing", "Cooking rice", "Outdoors cooking" and "Use of cutlery" are repeated and executed, the performance capability is high.
8. "Climbing mountain", "Sporting activities", and "Campfire" are understood easily from an experience once, and the performance capability is equipped easily, too.
9. The practice chance of "Constellation observation", "Playlet", "Measurement of the distance", "Weather chart" and "Weather forecast" is few. The acquisition of the performance capability is difficult for the practice period.
10. The leadership of "Fire causing", "Cooking rice", "Outdoors cooking" and "Use of cutlery" has been acquired.
11. It is very difficult to improve the leadership of "Constellation observation", "Ropework", "Playlet", "Judgment of the azimuth", "Measurement of the distance", "Map", "Weather chart", "Weather forecast" and "Nature-views guess".
12. The item from which a significant difference is detected between fiscal year is "Item that knowledge and the technology are demanded" and "Item influenced by the weather and atmosphere".

緒 言

健康・スポーツ指導者の養成機関としての授業「キャンプ実習」のあり方について、正確で適切な評価方法の構築と、縦断的・横断的な調査・研究の蓄積が必要であると考え、一連の研究^{1), 2), 3), 4)}に着手した。研究目的に、養成課程に存在する組織、指導者、プログラム、施設・設備、実習生に関わる質的向上の

問題解決を置き、①診断的評価方法、②形成的評価方法、③総合的評価方法の3点について、本学科に最も適した形で創出することを主な研究目標とし、複数年にわたる継続研究を予定した。

過去、第4報^{1), 2), 3), 4)}までを報告するに至ったが、それぞれの研究は、単年度の状況評価や分析を中心に、各年の実習に共通する普遍部分の解明から、総合評価へつなげようとするものであった。そのため、研究該年度の傾向がきわだち、他年度の研究成果は比較対象や補足資料的扱いの域を脱しなかったことが反省された。

そこで、今回の研究は、4年間の研究成果を対等な位置関係で比較検討しなおすことを主眼に置き、大学における1サイクルといえる4年間の実習に存在する普遍部分の解明を最大の目標とした。特に分析の中心として取り上げたのは、実習の評価で最も重要な実践力養成に関する「実行力・指導力の獲得」の部分である。感情や意識変化の検討については、次報に譲ることとした。

方 法

1. 実習の概要と分析の対象

(1) 実習の概要

武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科ならびに同短期大学部健康・スポーツ学科のキャンプ実習(以下キャンプ実習)は、①自然の中で、集団的・自律的生活をすることによって自己をみつめ、真の協力・共同生活を体験する、②キャンプ生活の技術を学びつつ、生活全体の諸活動(アクティビティ)を通して自分の体力や精神力を鍛える、③将来、キャンピングの指導をする立場におかれたとき、戸惑うことなく計画立案することができ、民主的な運営指導ができるようになる⁵⁾という3つの目標のもと企画され、3回の事前学習・オリエンテーションを経て、場所を新潟県の妙高山麓笹ヶ峰キャンプ場に移し、例年7月上旬に4泊5日の日程で実施される。

指導教員は本学科の専任教員8名があたり、プログラムは、各教員の指導のもと学生達が企画立案し、あくまで相互指導が可能のように配慮されている。

(2) 分析の対象

分析の対象者は、大学・短大ともに2年生で開講されている「キャンプ実習」という選択必修科目を、平成15年度に履修した131名、平成16年度に履修した119名、平成17年度に履修した118名、平成18年度に履修した114名の学生である。そのうち研究に採用したのは、欠席者、無効回答を除いた有効回答分である(Table 1.)。

大学・短大	年 度				合 計
	2003	2004	2005	2006	
1. 大学	83	75	81	93	332
2. 短大	40	32	30	9	111
合 計	123	107	111	102	443

2. 調査の内容と方法

(1) 調査内容

実習からもたらされる変化を測定しなかったために、調査は[事前調査]と[事後調査]の2回を計画した。[事前調査]は、参加直前までの個人の状態を計るもので、キャンプ実習参加に関わる基本項目と期待や自己評価に関わる項目に加え、岸ら⁶⁾の自然・野外活動に対する意識の研究を参考に構成した。また、[事後調査]は、知識・技術の獲得程度に加え、斎藤⁷⁾の研究を参考に満足感と達成感を、岸ら⁶⁾の研究を参考に自然・野外活動に対する意識変化を測定できるよう構成した。

(2) 調査方法

全ての調査を、集合調査方法を用いた記名方式で実施した。記名方式は、[事前調査]と[事後調査]の

記入者を一致させたかったため、学生の許可を得て、記入者本人のみが理解できる4桁の暗証番号を利用した形式で行った。実施時期については、〔事前調査〕を実習1日目の往路の車中で、〔事後調査〕を実習5日目の復路の車中でそれぞれ実施した。

3. 分析の内容と方法

今回の研究は、実習が有する「参加者の意識・行動・学習・達成レベル」への貢献量について、4ヵ年の蓄積データから普遍部分を抽出することが最大の目標である。従って、取り上げる全ての項目の分析は、4実習の比較検討となる。

- (1) 参加の理由、期待のプログラム、参加の期待、習得目標、キャンプ経験、キャンプ技術については、 χ^2 独立性の検定を用い、分類間の検定を行った。
- (2) 事前の自己評価、実行力の自己評価、指導力の自己評価については、多重比較検定 (Scheffe's F test) を用い、有意水準 5% で分類間の検定を行った。

結果と考察

1. 参加理由と習得目標

実習参加理由に対する回答率上位項目で、1位「参加料金の安さ」、2位「単位の関係」、4位「キャンプが好き」、5位「キャンピングの知識や技術の向上」の4項目は、4年間ともに上位回答項目となり、年度間の有意差は検出されなかったが、唯一、3位「友達といきたかった」において、年度間に有意差が認められた (Table 2)。期待するプログラムにおいては、1位「星座観察」、2位「野外調理」、3位「キャンプファイヤー」、4位「登山」、5位「スポーツ」が、4年間全く同様に上位回答項目となり、年度間の有意差も検出されなかった。年度間に有意差が検出された項目は、回答率下位の「オリエンテーリング」「歌唱」「朝の集い」であった (Table 3)。

参加料金の安さと単位取得を優先した実習選択をし、日常、擬似的にでも体験することが困難な活動をとおして、友人と楽しみを共有したいとする意識は普遍的と推測したこれまでの研究結果は支持された。

Table 2. 参加の理由 (％)

項 目	年 度				合計	χ^2	P
	2003	2004	2005	2006			
1. 参加料金が安い	40.65	54.21	45.95	54.90	48.53	6.3920	**
2. 単位の関係上	34.15	41.12	48.65	37.25	40.18	5.5776	
3. 友達といきたかった	26.02	35.51	17.12	36.27	28.44	13.0542	
4. キャンプが好き	21.95	23.36	20.72	28.43	23.48	2.0232	
5. キャンピングの知識や技術の向上	21.95	14.02	25.23	22.55	20.99	4.5536	
6. 新たな友達ができそうだった	13.82	12.15	11.71	16.67	13.54	1.3534	
7. キャンプをしたことがない	13.82	7.48	13.51	14.71	12.42	3.2389	
8. キャンピングの指導力向上	8.13	10.28	12.61	12.75	10.84	1.7138	
9. 学科の実習で安心	13.01	8.41	13.51	6.86	10.61	3.7883	
10. その他	5.69	5.61	6.31	2.94	5.19	1.4296	
11. 大学教員の引率・指導	0.81	0.93	2.70	1.96	1.58	1.7466	
12. 不明	0.81	0.00	0.90	1.96	0.90	—	
N	123	107	111	102	443		

*: $P < 0.05$ **: $P < 0.01$ ***: $P < 0.001$

Table 3. 期待のプログラム

(%)

項 目	年 度				合計	χ^2	P
	2003	2004	2005	2006			
1. 星座観察	41.46	47.66	44.14	47.06	44.92	1.1351	
2. 野外調理	40.65	41.12	44.14	38.24	41.08	0.7810	
3. キャンプファイヤー	31.71	29.91	29.73	32.35	30.93	0.2588	
4. 登山	31.71	18.69	24.32	28.43	25.96	5.5335	
5. スポーツ	17.07	18.69	15.32	21.57	18.06	1.5234	
6. オリエンテーリング	11.38	14.95	19.82	26.47	17.83	9.5913	*
7. テント設営・撤収	20.33	11.21	11.71	11.76	14.00	5.6841	
8. ロープワーク	15.45	11.21	12.61	16.67	14.00	1.6836	
9. ハンドクラフト	17.07	10.28	13.51	14.71	14.00	2.2590	
10. フォークダンス	12.20	10.28	4.50	7.84	8.80	4.7253	
11. 歌唱	9.76	2.80	5.41	0.98	4.97	10.5185	*
12. 奉仕活動	4.07	0.93	0.00	2.94	2.03	5.9281	
13. 朝の集い	0.81	6.54	0.00	0.00	1.81	18.1364	***
14. その他	1.63	0.93	0.90	1.96	1.35	0.6607	
15. 開・閉校式	0.81	1.87	0.00	0.98	0.90	2.1458	
16. 不明	0.81	0.93	1.80	3.92	1.81	—	
N	123	107	111	102	443		

*:P<0.05 ** :P<0.01 ***:P<0.001

キャンプ実習に対する期待については、1位「思い出づくり」、2位「キャンプの楽しさを体験」および4位以下の項目には有意差は検出されなかったが、3位「友達との人間関係づくり」で有意差が検出され、年度間の変動が予測された(Table 4.)。習得目標については、1位「基本技術」、2位「安全な方法」、3位「共同生活のあり方」への回答傾向が強く、どの項目においても、年度間の有意差はみとめられなかった(Table 5.)。

実習に対する取り組み方については、積極性よりも、「基本」「安全」「平和」志向が強いと判断された。

Table 4. 参加の期待

(%)

項 目	年 度				合計	χ^2	P
	2003	2004	2005	2006			
1. 思い出づくり	76.42	73.83	71.17	74.51	74.04	0.8528	
2. キャンプの楽しさを体験	56.10	55.14	60.36	63.73	58.69	2.0916	
3. 友達との人間関係づくり	44.72	55.14	39.64	62.75	50.11	13.8959	**
4. 自然とのふれあい体験	47.15	48.60	46.85	46.08	47.18	0.1410	
5. キャンピングの知識・技術の習得	45.53	42.06	49.55	44.12	45.37	1.3222	
6. キャンピングの指導力の向上	16.26	19.63	25.23	21.57	20.54	2.9940	
7. その他	1.63	1.87	3.60	0.00	1.81	3.9237	
8. 不明	0.00	0.00	2.70	1.96	1.13	—	
N	123	107	111	102	443		

*:P<0.05 ** :P<0.01 ***:P<0.001

2. 経験・技術と事前学習の自己評価

本学科のキャンプ実習がキャンプ初体験である学生は、どの年度も10%程度であり、ほとんどの学生は高校・大学のいずれかにおいて宿泊を伴うキャンプ経験を有していることが明らかとなった。経験の仕方については、年度間に有意差は認められなかった(Table 6.)。キャンプ技術の自己評価については、「飯盒(コッヘル)炊飯」「野外調理」「方位・距離・地図」の項目において有意差が検出された。特に、「飯盒(コッヘル)炊飯」「野外調理」の2項目は、年度が進むにつれ回答率が低下していることが明らか

Table 5. 習得目標 (％)

項 目	年 度				合計	χ^2	P
	2003	2004	2005	2006			
1. 基本的なキャンピング技術	68.29	58.88	73.87	65.69	66.82	5.7141	
2. 安全なキャンピングの方法	48.78	37.38	40.54	46.08	43.34	3.6944	
3. 野外における適切な共同生活のあり方	34.96	41.12	24.32	34.31	33.63	7.1152	
4. 自然と共生するためのルール・マナー	32.52	29.91	23.42	32.35	29.57	2.9128	
5. キャンピングの指導方法	20.33	21.50	24.32	25.49	22.80	1.0974	
6. 各プログラムの計画・実施方法	9.76	13.08	9.01	12.75	11.06	1.4273	
7. その他	1.63	0.93	1.80	0.00	1.13	1.9238	
8. 不明	2.44	0.93	1.80	0.98	1.58	—	
N	123	107	111	102	443		

*:P<0.05 **:P<0.01 ***:P<0.001

Table 6. キャンプ経験 (％)

項 目	年 度				合計	χ^2	P
	2003	2004	2005	2006			
1. 大学の宿泊研修で経験	60.16	58.88	63.06	59.80	60.50	0.4494	
2. 高等学校までの林間学校で経験	60.98	59.81	50.45	50.00	55.53	4.6949	
3. 家族とのキャンプ経験	38.21	28.97	32.43	28.43	32.28	3.2075	
4. 初めて	10.57	11.21	11.71	12.75	11.51	0.2732	
5. 友人とのキャンプ経験	6.50	13.08	12.61	8.82	10.16	3.7352	
6. 地域でのキャンプ経験	9.76	9.35	9.91	7.84	9.26	0.3366	
7. YMCAなどでのキャンプ経験	7.32	3.74	2.70	2.94	4.29	3.9583	
8. その他	2.44	2.80	1.80	2.94	2.48	0.3476	
9. ガールスカウトでの経験	4.07	2.80	0.90	0.00	2.03	5.7040	
10. キャンプのリーダーを経験	0.81	0.93	1.80	1.96	1.35	0.8580	
11. キャンプ関係の団体に所属	0.81	0.00	0.90	0.98	0.68	0.9853	
12. 不明	0.81	0.00	0.00	0.98	0.45	—	
N	123	107	111	102	443		

*:P<0.05 **:P<0.01 ***:P<0.001

Table 7. キャンプ技術 (％)

項 目	年 度				合計	χ^2	P
	2003	2004	2005	2006			
1. 飯盒(コッヘル)炊飯	65.85	57.01	48.65	47.06	55.08	10.4393	*
2. 野外調理	59.35	52.34	43.24	43.14	49.89	8.4808	*
3. マキでの火おこし	44.72	41.12	45.95	41.18	43.34	0.8106	
4. 刃物の安全な使用	31.71	26.17	22.52	30.39	27.77	2.9613	
5. テントの設営・撤収	23.58	23.36	19.82	17.65	21.22	1.6123	
6. かまど造り	16.26	14.95	13.51	14.71	14.90	0.3510	
7. 天気図・気象予測	4.07	0.93	1.80	1.96	2.26	2.8153	
8. 方位・距離・地図	4.88	0.00	1.80	0.98	2.03	7.8218	*
9. 食用植物の採取と調理	1.63	0.00	0.90	1.96	1.13	2.1786	
10. ロープワーク	1.63	0.93	0.90	0.00	0.90	1.6493	
11. 不明	10.57	14.02	18.92	20.59	15.80	—	
N	123	107	111	102	443		

*:P<0.05 **:P<0.01 ***:P<0.001

となった(Table 7.)。

キャンプ経験については、未経験者は非常に少なく、1人2～3回程度の経験量とするこれまでの解
 釈は妥当と判断された。キャンプ技術に関しては、学校が主催するキャンプ活動への参加者が多く、皆

がほぼ同様な経験を有し、技術を獲得している可能性が高いものと推測された。調理に関しては、知識・技術が年を追って低下傾向を示していることから、キャンプにおける経験からの影響と推測するより、実生活における経験不足ととらえることのほうが妥当ではないかと推察した。

事前の準備や学習の量、オリエンテーションや要項等の作用、適応能力や期待の程度、班員とのコミュニケーションについては、「準備段階における班員とのコミュニケーション」の項目にのみ有意差が検出された(Table 8.)。

2005 年度までの課題であった事前学習に関する方法の再考と時間の確保の問題解決のため、2006 年度から事前教育時間の延長を試みた。事前教育は、1 回 90 分とし 3 回実施した。昨年までの検討の仕方では著しい効果は得られないと結論したが、結果から、「準備段階における班員とのコミュニケーション」に大きな変容を発見することができた。

事前教育時間の延長は、班員間のコミュニケーション機会の増加に直結していることがはっきりとした。しかし、他の意識・行動には大きな変化は与えられず、事前学習に関する方法の再考と時間の確保問題は、今回の分析においても重要な課題であることが明らかとなった。実習に望むにあたって一様に自覚しておかなければならない事柄についての検討がなされたうえで、内容・方法が吟味されるべきことが、再度指摘されたものと判断する。

Table 8. 事前の自己評価

項 目	A.2003		B.2004		C.2005		D.2006		F	P
	N = 120		N = 107		N = 109		N = 102			
	Mean	S. D.	Mean	S. D.	Mean	S. D.	Mean	S. D.		
1. 準備段階における班員とのコミュニケーション	3.70	0.98	3.72	0.89	3.98	0.89	4.08	0.78	4.8718	AD, BD
2. 個人の知識や技術に関する事前学習	2.20	0.90	2.27	0.87	2.24	0.91	2.24	0.90	0.1186	
3. 役割担当に関する事前の学習や準備	2.65	1.04	2.61	1.01	2.79	0.83	2.79	0.90	1.0865	
4. 個人的用具の準備	3.53	0.81	3.40	1.03	3.37	0.85	3.62	0.81	1.8765	
5. オリエンテーションや実習要項の有効作用	3.66	0.87	3.55	0.91	3.82	0.75	3.79	0.80	2.3519	
6. 個人の環境変化の対する適応能力	3.10	0.81	3.27	0.87	3.32	0.77	3.27	0.71	1.7373	
7. キャンプ実習直前の期待	3.53	1.11	3.52	1.16	3.44	1.13	3.70	1.02	0.9738	

3. 実行力と指導力の獲得

実習で行われた各プログラムについて、自分自身が実習中に獲得した実行力を自己評価してもらった。評価は、「とても自信がついた」から「まったく自信がない」までの 5 段階評価とした(Table 9.)。

実行力で比較的高く評価した項目は、「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」「登山」「スポーツ活動」「キャンプファイヤー」であり、逆に低く評価した項目は、「星座観察」「スタンツ」「距離の測定」「天気図」「気象予測」であった。年度間に有意差が検出された項目は、「星座観察」「ロープ結策法」「ハンドクラフト」「フォークダンス」「キャンプファイヤー」「野外ゲーム」「スタンツ」であった。

「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」については、実習中かなりの回数、繰り返し実践されることにより、実行力は獲得されていくこと、逆に、「登山」「スポーツ活動」「キャンプファイヤー」については、一度の経験でその大部分が理解されやすいプログラムであることが推測された。「星座観察」「スタンツ」「距離の測定」「天気図」「気象予測」については、日ごろから実践する機会がほとんどなく、やや専門的知識を要するプログラムであることから、一度や二度程度の短時間の経験では、その実行力は獲得しづらいものと予測された。年度間に有意差が検出された項目については、知識・技術が要求され、かつ、その日の天候やその場の雰囲気に影響されやすい傾向を有すプログラムであると推察された。

Table 9. 実行力の自己評価

項 目	A. 2003 N = 120		B. 2004 N = 107		C. 2005 N = 109		D. 2006 N = 102		F	P
	Mean	S. D.	Mean	S. D.	Mean	S. D.	Mean	S. D.		
1. テントの設営・撤収	3.57	0.85	3.56	0.70	3.72	0.69	3.69	0.87	1.0687	
2. テントの管理	3.68	0.81	3.78	0.74	3.73	0.84	3.84	0.78	0.8893	
3. 火おこしとマキの組み方	4.07	0.95	4.09	0.95	3.99	0.96	4.18	0.99	0.6659	
4. 飯盒炊飯	4.18	0.77	4.18	0.83	4.15	0.77	4.25	0.77	0.3455	
5. 野外調理	4.24	0.76	4.22	0.79	4.07	0.82	4.19	0.79	1.0030	
6. 刃物(ナイフ・ナタ等)の使用	4.02	0.86	4.01	0.97	4.01	0.96	4.19	0.77	0.9538	
7. 朝の集い	3.76	0.95	3.97	0.77	4.00	0.91	3.94	0.83	1.8860	
8. 登山	3.94	1.06	4.03	0.79	4.02	0.88	3.96	0.78	0.3260	
9. オリエンテーリング	3.71	1.05	3.76	0.94	3.75	1.05	3.89	0.90	0.7036	
10. 星座観察	2.95	0.87	3.13	1.04	3.87	0.92	3.19	0.89	21.6862	AC, BC, CD
11. ロープ結策法	3.50	0.92	3.79	0.88	3.43	0.97	3.62	0.81	3.4884	BC
12. ハンドクラフト	3.66	0.86	3.79	0.83	3.68	0.87	4.10	0.79	6.2638	AD, CD
13. スポーツ活動	4.10	0.82	4.08	0.77	4.04	0.89	4.02	0.77	0.2714	
14. 歌唱	3.78	0.91	3.73	0.84	4.01	0.93	3.75	0.82	2.4258	
15. フォークダンス	3.98	0.89	3.59	0.88	4.12	0.92	3.67	0.89	8.7163	AB, BC, CD
16. キャンプファイヤー	3.63	0.92	3.67	0.89	4.14	0.93	4.18	0.76	11.9698	AC, AD, BC, BD
17. 野外ゲーム	3.39	0.84	3.59	0.86	3.95	0.95	3.70	0.83	8.7301	AC, BC
18. スタンツ(寸劇)	3.38	0.93	3.52	0.96	3.80	1.04	3.25	0.90	6.6428	AC, CD
19. 方位の判定	3.76	1.04	3.78	1.01	3.64	0.97	3.73	1.16	0.3839	
20. 距離の測定	3.20	0.97	3.41	0.93	3.20	1.02	3.31	1.01	1.2266	
21. 地図	3.52	1.05	3.54	1.02	3.56	0.96	3.63	1.01	0.1994	
22. 天気図	2.77	0.90	2.77	0.89	2.83	0.89	2.83	0.89	0.1744	
23. 気象予測	2.76	0.99	2.76	0.93	2.68	0.80	2.78	0.92	0.2845	
24. 自然観察	3.31	0.95	3.50	0.89	3.61	0.89	3.62	0.89	2.9419	
25. 奉仕活動	3.83	0.78	3.81	0.78	4.03	0.85	3.79	0.86	1.9182	

実習中に獲得したと思う指導力に関しても、実行力と同様に自己評価をしてもらった(Table 10.)。

指導力で比較的高く評価した項目は、「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」「スポーツ活動」であり、逆に低く評価した項目は、「星座観察」「ロープ結策法」「スタンツ」「方位の判定」「距離の測定」「地図」「天気図」「気象予測」「自然観察」であった。年度間に有意差が検出された項目は、実行力と全く同様に、「星座観察」「ロープ結策法」「ハンドクラフト」「フォークダンス」「キャンプファイヤー」「野外ゲーム」「スタンツ」であった。

実行力と比例するように、評価も検定結果もほぼ同様の傾向がうかがえた。「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」については、実習中の繰り返し実践により、また、「スポーツ活動」については、本学科の専門分野であることから日常の授業中に、実行力・指導力ともに獲得されていることが推測された。「星座観察」「ロープ結策法」「スタンツ」「方位の判定」「距離の測定」「地図」「天気図」「気象予測」「自然観察」については、日ごろから実践する機会が少ないこと、専門的知識や経験量が必要とされることから、本学科の実習程度の経験では、自身の実行力すら向上させることは難しい。よって、指導力の向上にまで影響を及ぼしているとは考えづらい。年度間に有意差が検出された項目については、知識・技術が要求され、かつ、その日の天候やその場の雰囲気の影響されやすい傾向を有すプログラムであることが、実行力の分析と同様に推察された。

Table 10. 指導力の自己評価

項 目	A. 2003 N=120		B. 2004 N=107		C. 2005 N=109		D. 2006 N=102		F	P
	Mean	S. D.	Mean	S. D.	Mean	S. D.	Mean	S. D.		
1. テントの設営・撤収	3.46	0.90	3.50	0.73	3.56	0.86	3.62	0.77	0.6998	
2. テントの管理	3.67	0.76	3.64	0.76	3.62	0.84	3.80	0.73	1.1938	
3. 火おこしとマキの組み方	3.98	0.89	4.08	0.85	3.96	0.98	4.09	0.89	0.5354	
4. 飯盒炊飯	4.20	0.69	4.17	0.85	4.12	0.76	4.04	0.81	0.8443	
5. 野外調理	4.17	0.73	4.15	0.79	4.05	0.80	3.99	0.81	1.1563	
6. 刃物(ナイフ・ナタ等)の使用	3.91	0.85	3.87	0.93	3.95	0.97	4.09	0.77	1.1800	
7. 朝の集い	3.83	0.75	3.83	0.81	3.89	0.88	3.88	0.75	0.1913	
8. 登山	3.75	0.84	3.79	0.90	3.62	0.87	3.76	0.76	0.8138	
9. オリエンテーリング	3.63	0.93	3.64	0.96	3.66	0.87	3.79	0.89	0.7380	
10. 星座観察	3.06	0.88	3.19	0.98	3.53	0.94	3.19	0.85	6.3002	AC
11. ロープ結策法	3.47	0.94	3.65	0.95	3.08	1.02	3.50	0.88	7.1915	AC, BC, CD
12. ハンドクラフト	3.59	0.86	3.79	0.93	3.48	0.93	3.96	0.77	6.4744	AD, CD
13. スポーツ活動	3.83	0.76	4.01	0.84	3.90	0.87	3.95	0.76	0.7752	
14. 歌唱	3.76	0.84	3.59	0.87	3.85	0.98	3.61	0.89	2.1038	
15. フォークダンス	3.83	0.86	3.58	0.89	4.00	0.92	3.54	0.94	6.2922	BC, CD
16. キャンプファイヤー	3.54	0.75	3.57	0.87	3.82	0.96	3.90	0.81	4.8103	AD, BD
17. 野外ゲーム	3.28	0.74	3.56	0.81	3.77	0.93	3.62	0.81	7.7804	AC, AD
18. スタンツ(寸劇)	3.27	0.83	3.35	0.92	3.55	1.08	3.16	0.92	3.3999	CD
19. 方位の判定	3.54	0.97	3.60	1.05	3.36	1.10	3.38	1.17	1.2728	
20. 距離の測定	3.13	0.95	3.25	0.94	3.07	1.11	3.08	1.01	0.7422	
21. 地図	3.25	0.98	3.19	0.93	3.25	0.99	3.37	1.03	0.6422	
22. 天気図	2.77	0.87	2.82	0.89	2.77	0.92	2.77	0.93	0.1099	
23. 気象予測	2.82	0.89	2.76	0.88	2.70	0.89	2.78	0.97	0.2695	
24. 自然観察	3.21	0.90	3.33	0.88	3.32	1.06	3.45	0.92	1.3770	
25. 奉仕活動	3.73	0.86	3.73	0.89	3.76	0.92	3.80	0.89	0.1832	

実行力・指導力のいずれに関しても、得手不得手に大きな差はないと判断されるが、班を担当し生活指導を行うインストラクター程度の活動に加え、ごく一般的に実施されている組織キャンプに組み込まれるプログラム程度ならば、初歩的に運営・指導していけるほどの実行力・指導力を持つまでに至っている可能性がうかがわれた。

しかし、知識や技術の量、あるいは経験量がどうしても多く必要なプログラムについては、現在のキャンプ実習のスタイルや期間では、その実行力・指導力の獲得に至るには限界があり、実施時間の確保や事前学習量の増量は、今回の検討においても大きな課題と言えた。

まとめ

今回の研究は、実習の評価で最も重要な実践力養成に関わる「実行力・指導力の獲得」の部分について、4年間の研究成果を対等な位置関係で比較検討しなおすことを主眼に置き実施した。結果から以下のことを指摘し、まとめとする。

1. 実習参加学生は、参加料金の安さと単位取得を優先した実習選択をし、日常、擬似的にでも体験することが困難な活動をとおして、友人と楽しみを共有したいとする意識を持っている。
2. 実習に対する取り組み方については、積極性よりも、「基本」「安全」「平和」志向が強い。
3. キャンプ経験については、未経験者は非常に少なく、1人2～3回程度の経験量を有す。
4. キャンプ技術に関しては、学校が主催するキャンプ活動への参加者が多いことから、皆がほぼ同様

な経験を有し、技術を獲得している可能性が高い。

5. 調理に関しては、知識・技術が年を追って低下傾向を示していることから、キャンプにおける経験からの影響と推測するより、実生活における経験不足ととらえることのほうが妥当である。
6. 事前教育時間の延長は、班員間のコミュニケーション機会の増加に直結している。
7. 「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」については、実習中かなりの回数、繰り返し実践されることから、実行力は獲得されている。
8. 「登山」「スポーツ活動」「キャンプファイヤー」については、一度の経験で理解されやすく、実行力の獲得しやすいプログラムである。
9. 「星座観察」「スタンツ」「距離の測定」「天気図」「気象予測」については、実践する機会がなく、専門的知識を要するプログラムであることから、本実習では、その実行力は獲得しづらい。
10. 「火おこしとマキの組み方」「飯盒炊飯」「野外調理」「刃物の使用」については、実行力と同様に、指導力も獲得されている。
11. 「星座観察」「ロープ結策法」「スタンツ」「方位の判定」「距離の測定」「地図」「天気図」「気象予測」「自然観察」については、多くの専門的知識や経験量が必要とされることから、本実習程度の経験では、指導力の向上は非常に難しい。
12. 年度間に有意差が検出された項目は、知識・技術が要求され、かつ、その日の天候やその場の雰囲気に影響されやすい傾向を有すプログラムである。

文 献

- 1) 中村哲士・保井俊英・會田宏・小柳好生・田中繁宏・永戸久美・四元美帆・野老稔，武庫川女子大学紀要，52，66（2004）
- 2) 中村哲士・保井俊英・會田宏・小柳好生・田中繁宏・永戸久美・四元美帆・野老稔，武庫川女子大学紀要，53，41-42（2005）
- 3) 中村哲士・保井俊英・會田宏・小柳好生・松本裕史・田中繁宏・四元美帆・西坂珠美・野老稔，武庫川女子大学紀要，54，48（2006）
- 4) 中村哲士・保井俊英・會田宏・小柳好生・中西匠・永田隆子・田中繁宏・西坂珠美・松岡紗也香・野老稔，武庫川女子大学紀要，54，48（2006）
- 5) 武庫川女子大学健康・スポーツ科学科，キャンプ実習要項（2003-2008）
- 6) 岸檣夫，自然活動入門—教養としてのアウトドアー，アイオーエム，128-131（1992）前掲1），67（2004）
- 7) 斉藤仲次，図説野外教育，新思潮社，177-181（1976）
- 8) 松田稔，ザ・キャンパー—その理論と実際—，創元社，146-152（1981）